

平成 29 年度第 2 回スポーツを楽しむまち逗子推進懇話会 議事録

- 日 時 2018 年 1 月 30 日 (火) 午後 7 時～午後 8 時 25 分
- 場 所 市役所 5 階第 2 会議室
- 出席者 (敬称略・順不同)
 - (座長) 塔本正子 (副座長) 若菜敏孝
 - 石渡眞澄、野口裕之、井上浩子、松井弘喜、稲葉昌代、石井進介 (代理出席)、須田正二
 - (アドバイザー) 海老原修
- 欠席者 (敬称略・順不同)
 - 平井規之、近藤雅江、菊地栄三、藤本正照、川名裕
- 事務局出席者
 - 翁川文化スポーツ課担当課長、黒羽係長、森主事補
- 会議の公開・非公開 公開
- 傍聴人の有無 0 人
- 記録 森主事補 平成 30 年 1 月 30 日作成
- 議題
 1. 緊急財政対策に伴う影響について
 2. 平成 30 年度のスポーツ振興施策について
 3. その他
 - ・指定管理者の選定について
 - ・東京 2020 オリンピック・パラリンピックについて
- 当日配付資料
 - 次第
 - 名簿
 - (参考資料) スポーツの祭典 2017 事業報告書
 - (参考資料) スポーツの祭典 2017 パンフレット

■議事概要

●開会

●資料の確認

●議事

塔本座長

議事に入る。議事1の「緊急財政対策に伴う影響」について、事務局から説明をお願いする。

事務局

緊急財政対策の経緯について、平成30年度の予算編成時点で約7億円が不足している。歳入に見合う歳出を原則に、市民生活への影響度や事業実施の緊急度といった視点から優先順位を判断した上で、特にイベント関連はゼロベースで検討する等、財源の確保に真剣に取り組み、歳入増・歳出減を前提とした緊急財政対策プログラムが打ち出された。

緊急財政対策に伴う負担金のカットによりチャレンジデーは中止するが、スポーツの祭典、市内一周駅伝競走大会（以下、市内一周駅伝）は継続を検討している。

逗子アリーナ、有料の公園施設について、従来の最終月曜日休館・休場から、毎週月曜日休館・休場となる。ただし、月曜日が祝日である場合は開館・開場する。第一運動公園及び小坪飯島公園のプールについて、平成30年度は7月16日（月・祝）から9月2日（日）と開設期間を短縮し、委託料を縮減した。小中学生、65歳以上の高齢者の無料券も廃止し、収入増を図る。

スポーツ推進事業としての交付金の休止、委託事業・補助金の見直しにより、チャレンジデー及びスポーツ・レクリエーションフェスティバルは休止、今年休止した三浦半島駅伝は例え再開しても参加しない。

一方で、スポーツの祭典はスポーツの祭典実行委員会において実施に向けて検討している。市内一周駅伝は逗子市体育協会、逗子市陸上競技協会において実施に向けて検討している。地域ファミリー運動会、地域対抗球技大会は継続して実施し、市町村対抗かながわ駅伝競走大会にも参加する予定である。また、逗子市体育協会主催で、逗子市競技連盟及び逗子市レクリエーション協会に加盟する団体に参加を呼び掛け、市民総合体育大会の開催を検討している。ジュニアスポーツ教室はジュニア育成補助事業と形を変えて、ジュニアヨット教室、ジュニアウィンド教室を実施する。

塔本座長

ただいまの事務局の説明に対して、質問・意見のある方はお願いしたい。

また、逗子アリーナ、有料の公園施設の休館・休場日の変更等については、特に市民に影響が大きいことから、委員の皆さまの意見をいただきたい。

松井委員

毎週月曜日休館・休場によって、経費はどの程度削減されるのか。

事務局

元々毎週月曜日が休館日であり、平成26年4月から最終月曜日休館・休場となったためか、最終月曜日休館・休場が利用者に定着・浸透しておらず、月曜日の利用率は高くない。そのため、毎週月曜日休館・休場にしても利用者への影響は比較的少ないだろう。

月曜日が祝日と重なる場合は開館するため、スポーツ団体の大会の開催、それに伴う駐車場の利用も含め、多少の人件費が掛かっても収支はプラスになると予測している。

野口委員

現状、月曜日の収支は赤字であったのか。

事務局

緊急財政対策に伴い、全ての公共施設の休館・休場日の増加が要求された。初めは、夜の時間帯の休止も検討されたが、その時間帯は社会人の利用が増加傾向であった。時間区分の短縮ではなく丸一日休館・休場する形で考えた際、3年前まで休館日だった月曜日が利用者の比較的少ない曜日だった。ただし、月曜日が祝日と重なる場合は開館・開場することで利用者に配慮した。

月曜日の利用率は他の曜日と比較してやはり落ち込む。

質問は月曜日の収支が赤字かどうかであったが、そもそも赤字と黒字の定義によって変わるのでは一概には言えない。例えば、市から逗子市体育協会に指定管理料を払うことが市の歳出であるため赤字とするなら、赤字が解消されることはない。ただし、毎週月曜日休館・休場により指定管理料が抑えられることで、市の歳出は減る。

体育館として赤字か黒字かの話となると、人件費を含めて指定管理料を歳出している時点で赤字である。

野口委員

緊急財政対策で歳出減及び歳入増を検討していると思われるが、休館・休場日を増加し人件費がカットされることによる歳出の減少と、休館・休場日は増やさずに利用率の向上を図ることによる歳入の増加と、どちらが市の財政状況の改善に寄与するのか。

事務局

現在の月曜日の利用状況から考えると、開館することによる人件費の方が額は大きい。

野口委員

月曜日に限らず、利用率が向上する余地はあるのか。利用率向上によって市財政の健全化に寄与するのではないか。

事務局

利用率向上によって寄与できるが、利用率向上で増える収入はそれほど大きくない。

この3年間、恒常的に月曜日の利用率が落ち込んでいるため、キャンペーンの実施や新しい団体の利用促進、うみかぜクラブの教室の振替等を行ったが、依然として利用率が伸

びない状況から、毎週月曜日休館・休場とすることを選択した。

ただし、将来的には再び月曜日は開館した方が良いと思われる。

塔本座長

以前は毎週月曜日が休館・休場日だったが、平成 26 年 4 月から市民サービス向上のため、最終月曜日を除き開館した。緊急財政対策の前から、葉山との連携強化や距離的に遠い小坪の方々を呼び込む等の対策を検討していたが、利用率は中々向上しなかった。

その状況で緊急財政対策に伴い、利用率の少ない月曜日に白羽の矢が当たってしまった。逗子市体育協会も努力はしたが難しかった。

野口委員

緊急性を鑑みると毎週月曜日休館・休場は仕方がないが、長期的な視野に立つと利用率向上は検討の余地がある。

塔本座長

開館・開場する場合、例えば利用料の引下げ等、利用率向上を目指す手立ては様々ある。しかし、開館・開場するにしても人件費や照明費等、多様な経費が掛かり、市の財政状況が悪くなり現実的に費用対効果を考えると、納得はできないが毎週月曜日休館・休場は仕方がない。

井上委員

常設の施設について、緊急財政対策に伴い平成 30 年度に限り毎週月曜日休館・休場とするのは致し方ないが、スポーツを楽しむ場所は目先の 150 円～200 円の話ではなく、市民の健康を維持するために必要である。平成 30 年度は仕方がないが、長い目で見れば健康を維持するための施設はできるだけ開館・開場していた方が良好だろう。

また、緊急時はイベントの実施について見直すべきではないか。イベントに対する経費削減の内容が口頭ではなく書面に出ていれば確証のある意見を言えるが、以前テニスコートのナイター用照明費がもったいないと意見を述べた立場としては、この緊急時にジュニアヨット教室及びジュニアウィンド教室を実施することが、本当に市民が納得できるのか。何人かの子どものみが経験するイベントより、逗子アリーナや有料の公園施設の月曜日開館・開場の方が良いのではないか。どのような経緯で、ジュニアヨット教室及びジュニアウィンド教室が、緊急財政対策に伴う削減の対象外になったのか。

事務局

東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けて、平成 30 年度はジュニアヨット教室、ジュニアウィンド教室についてはオリンピック・パラリンピック関連の事業となり、地方創生推進交付金といった補助金が付いたため、実施する方向である。

その他の教室の見直しは行っており、特に大人のスポーツについて逗子市体育協会の自主事業やうみかぜクラブの教室は、実施するかどうかの転換点である。将来を担うジュニアの教室は必要であり、海関係だけでなく、できるだけ多くの教室を開催したいと考えている。

平成 29 年度のジュニアヨット教室及びジュニアウィンド教室は人気があり定員が埋まった一方で、大人のヨット教室及びウィンド教室は定員割れしている。また、ヨットやウィンドの団体に若者が入ってこない切実な問題を抱えていることから、ジュニア教室実施のニーズがある。将来性や、オリンピック・パラリンピックに向けて県や国から補助金も出るといった点で、ジュニアヨット教室、ジュニアウィンド教室が実施することとなった。

松井委員

ジュニアヨット教室やジュニアウィンド教室を実施すれば、オリンピック・パラリンピックに結び付くという考え方は、短絡的だと思う。

スポーツ全体の底辺層を押し上げないと、トップ層は育たない。ジュニアヨット教室やジュニアウィンド教室を実施するだけで、オリンピック・パラリンピックに参画していると言えるのだろうか。

井上委員

逗子市以外からの財源が確保されていれば、実施しても良いと思う。ただし、その財源を明記して、誤解を受けないようデリケートに開催しないと市民も納得しない。ただ、予算が承認されている事業を止める必要はないと思う。

塔本座長

休館・休場日については、他に何か意見・質問はないか。

須田課長

関係団体への周知の状況や、その際のリアクションについて教えてほしい。

事務局

逗子市体育協会加盟団体には市民総合大会の話を通じて、各協会の会長には緊急財政対策が判明した時点で説明することで、周知を行っている。利用者には、窓口で周知を行っている。

須田課長

周知の後、団体の反応はどうか。特に月曜日に活動していた団体には、他施設への振替等を考えているのか。

事務局

活動場所の代替措置は中々取れないため、従来月曜日に活動していた団体には別の曜日に活動を行ってもらうよう理解をいただいた。緊急財政対策の影響については、全ての団体から止むを得ない旨の了承はいただいた。

塔本座長

他に何か意見・質問はないか。

【意見なし】

塔本座長

議事2の「平成30年度のスポーツ振興施策」について、事務局から説明をお願いする。

事務局

「平成30年度のスポーツ振興施策」については、緊急財政対策の影響及び逗子市スポーツ推進計画の見直しに関することです。

健康づくり、場づくり、交流づくり、基盤づくりの4つの柱を基に、いつでもどこでも誰でもが気軽にスポーツを通じた健康づくりができる、スポーツを楽しむまち逗子を目指しているが、緊急財政対策に伴いイベントの予算はゼロベースになる等、スポーツ行政それ自体が火の車の厳しい状態である。

しかし、予算措置はないがイベントを開催するように、市内一周駅伝、スポーツの祭典については逗子市のスポーツのシンボルとして、逗子市体育協会、競技連盟、地域体育協議会、レクリエーション協会、スポーツ少年団等と協力・連携しながら実施を検討している。財政事情は苦しいが、逗子市のスポーツ推進事業の更なる活性化を推進していきたい。

実施計画が平成27年度から8年間の逗子市スポーツ推進計画が、平成30年度に4年目を迎え、中間見直しの段階にある。

うみかぜクラブの運営体制が、平成30年度から大きく変わる。小学生以上であれば誰でも参加できるよう参加資格を拡大する、従来は会員であれば無料であった参加費を会員100円、非会員500円とする代わりに、傷害保険に加入したり会員の特典を広げたりする、メニューの見直す（太極拳、ZUMBA 等人気メニューのコマ数増加、プールメニュー、月曜日のメニューの廃止）等がある。引き続き逗子市体育協会・うみかぜクラブと協力して、スポーツ推進事業を進めていきたい。

塔本座長

うみかぜクラブプールメニューの廃止について、更なる説明をお願いしたい。

松井委員

うみかぜクラブの現状について、設立当初は1,000件を目標としていた会員件数は731件であり、65歳以上が135名、65歳未満が439名、ジュニアが54名と高齢者の会員が非常に多い。2年前の会員件数は約800件であったが、会費の値上げ、人気メニュー（英会話教室）の廃止等に伴い減少傾向にある。

平成30年度でtoto助成金が終了し、平成31年度からは施設使用料が無料からうみかぜクラブが負担することとなる。プールメニューは市民交流センター屋内温水プールで行っており、1レーン貸切で施設使用料は9,000円であり、現在3レーン使用しているので1回の教室で27,000円の支出となり、プールメニューの継続は難しい。今後プールメニューを廃止しても、施設使用料の負担の影響は大きいだろう。

平成30年度から、全ての教室で1回100円の参加費を負担してもらう代わりに、傷害保険を掛ける。今後、プールメニューを廃止することで、会員数の激減が予測される。

そのため、平成30年度は会員が減少する状況で対処できる組織づくり、体質の見直しを

行うことが頭の中で描いている構図であり、決して悪い状況ではない。

うみかぜクラブの目的は地域コミュニティ形成の場の提供であるので、今後はプールを使わなくとも若者を引き込むメニューで勧誘し、会員を増やしていきたい。

塔本座長

ただいまの事務局及び松井委員のうみかぜクラブの内情、説明に対して、質問・意見のある方はお願いしたい。

スポーツは未病という面でも、高齢者に限らず健康にも大きな影響を与える。市民が健康で活躍できる環境を整える場づくりに努力している中で、緊急財政対策に伴う様々な財政カットで市民も大変驚いた。委員の方々も、自分の意見や人づてに聞いたこと等、多様な意見を出すことで、今後につながると考える。

石渡委員

スポーツの祭典、市内一周駅伝の継続を検討しているようだが、継続の有無についてはいつ頃判断されるのか。

事務局

市内一周駅伝については、補助金（平成 30 年度公共スポーツ施設等活性化助成事業）を申請し、3月に結果が出る。補助金が得られなかった場合は、多少の参加費の増加があっても継続してほしいという参加者の声もあるため、参加費を増加して何とか開催する予定である。

石渡委員

各地域での予算組みがあるので、市内一周駅伝の参加費の増加が決定したら早めに連絡してほしい。

事務局

逗子市体育協会と相談し、2月中には市内一周駅伝の参加費が増加する旨の連絡をしたいと考えている。その上で、3月に結果が出る補助金が獲得出来たら参加費を安くして開催する方向である。

石渡委員

地域ファミリー運動会や地域対抗球技大会については、今年程度の予算規模か。

事務局

予算は多少減額するが、地域ファミリー運動会や地域対抗球技大会の実施は決定している。予算は、2月末の予算議会で決定する。

塔本座長

地域の下部組織の予算が本年度中に組めなくなるため、市内一周駅伝の参加費については早く結論を出してほしい。地域のモチベーションの低下にもつながってしまう。

石渡委員

各イベントの連絡事項は、逗子市体育協会から連絡が来るということで良いのか。

事務局

そのように考えている。

松井委員

市内一周駅伝に限らず、文化スポーツ課の努力で補正予算等、追加の予算が付く可能性はあるのか。

事務局

市内一周駅伝の補助金については補正予算という形を取るが、基本的には緊急財政対策の予算のみであり、補正予算は難しい。

補助金の獲得にできるだけ動いていくが、10割付く補助金は大変少ない。多くの補助金が、市に何割かの負担を求める形式である。

井上委員

逗子海岸花火大会が開催しないと聞いたが、スポーツの祭典は継続しても良いのか。

事務局

市から資金は出ない前提で、スポーツの祭典実行委員会では継続したいとの声がある。あらゆる方法で資金を集め、運営資金を捻出していく。

井上委員

イベントのパンフレットに、予算が無いことを隠さず「無い」とはっきり述べた方が、かえって市民の元気が出てくるのではないか。

うみかぜクラブのプールメニューについて、従来うみかぜクラブが使用していた3レーンが空いても利用者はそれほど増加しないのではないか。それならば、施設使用料を半額にしてでもうみかぜクラブが使用した方が、市民交流センター指定管理者としても良いのではないか。

松井委員

市民交流センター指定管理者がプールを使用する場合、施設使用料はゼロである。そのため、うみかぜクラブのプールメニューを市民交流センター指定管理者の自主事業に委譲することで、運営主体を変えてメニューを継続していくことを考えている。

塔本座長

財政難であることは事実だが、逗子市民としてスポーツに対する意欲をいかに失わないでいられるか、そのための環境づくりは少しずつ進めている。

委員の皆さまも、スポーツに対する意欲を失わず、市民の元気を維持するよう、努力する必要がある。

しかし、補助金の有無等が不透明のままに話し合うのは非常に難しい。

野口委員

緊急財政対策はいつ頃まで行われるのか。

事務局

当面は2年間を考えている。できるだけ長期にならないよう努力するが、2年後の財政

状況により判断せざるを得ない。

塔本座長

今は市民ができるだけ声を上げた方が、緊急財政対策が明けた際に事業の復活が見込めるのではないか。市民の健康を守るという意見を強く持つべきである。

緊急財政対策に伴うイベントの休止・中止について、会員から何か意見は出ているか。

石渡委員

関係者間では話し合っているが、末端の会員からは聞いていない。関係者間でできるだけ自助努力で行うことを話し合っている。

塔本座長

他に何か意見・質問はないか。

【意見なし】

塔本座長

議事3の「その他」について、事務局から説明をお願いします。

事務局

10月14日（土）にまちづくりネットワーク会議が開催された。参加した野口委員に、内容の説明をお願いしたい。

野口委員

各審議会等の様々なジャンルの人々が集まり、近いジャンルの人同士でグループワークを行った。お互いの行っていることを関連付けて何ができるか話し合った。しかし、事前に細かい告知が無かったことや、市の掲げるテーマが抽象的だったこともあり、議論はあまり盛り上がりなかった。市長を中心として、まちづくりネットワーク会議の方向性を模索している印象だった。

事務局

現在、逗子アリーナや有料の公園施設等は逗子市体育協会が管理しているが、平成30年度で契約期間が終了するため、平成30年度中に第二期指定管理者を選定する。スケジュールは未定だが、選定委員会が開かれることを報告する。

東京2020オリンピック・パラリンピックについて、今年度は9月にフラッグツアーを行い、現在はマスコットキャラクターの人気投票を行っている。平成30年度は、江の島で開催されるセーリング競技のコースが確定する予定である。定置網に影響のないコース設定と輸送体制等を検討しており、2月5日（月）の江の島セーリング競技推進連絡会議の際に、詳細を聞いてくる。2018年から2020年にかけて、江の島でセーリングワールドカップが開催され、リビエラでは関連イベントを検討している。詳細が分かったら、ポスター・広報ずし等で周知する。

また、神奈川県からの補助金で、ジュニアヨット教室等を行う。例年、8月から9月に

かけて行うので、地域の子どもたちに周知・宣伝をお願いしたい。

塔本座長

ただいまの事務局の報告に対して、質問・意見のある方はお願いしたい。

須田課長

指定管理者の選定は何年ごとに行われるのか。

事務局

期間について、特に定めはない。

今年度選定を行った逗子文化プラザホールは7年間としたが、逗子市立体育館等は今までと同様5年間とする予定である。

野口委員

オリンピック・パラリンピックに関する補助金を獲得するのは良いが、マイナースポーツは中々その恩恵に預かれない。メジャースポーツは補助金に頼れる面もあるので、行政にはマイナースポーツのサポートについても考えてもらえれば良い。

松井委員

スポーツの祭典は逗子市スポーツ推進計画のリーディング事業であるので、もっと話し合っても良いのではないか。

現状、スポーツの祭典実行委員会としては実施を検討しており、市民まつりとの共同開催を目論んでいる。また、スポーツ推進委員ではボッチャを推進している。

平成30年度の市民まつりは、ステージが野球場からメインアリーナに、ダンボール迷路が野球場から体験学習施設スマイルの体育館に移動するので、野球場を大きく使用できる。また、サブアリーナが空いているので、そこでボッチャ大会を行いたい。逗子市体育協会との協力体制も構築している。市民まつりにおいて、スポーツにあまり縁のない人に、様々なスポーツを周知していきたい。

塔本座長

実行委員が他のイベントとのコラボに積極的であるのは良い考えだと思うので、委員の皆さまにもぜひ協力してもらいたい。

全体を通して、海老原アドバイザーから意見があればお願いしたい。

海老原アドバイザー

緊急財政対策に伴い他市町村と積極的につながりを持つことで、逗子市は地域連携の面で先導的になるかもしれない。

スポーツに限らず、イベントや事業は受益者負担が原則であり、そのため貸借対照表等はオープンにしなければならない。補助金で生き永らえるのではなく、いかに自主独立で事業を行っていくのか。おそらく、市内一周駅伝に関する地域活性化センターへの補助金（平成30年度公共スポーツ施設等活性化助成事業）申請は行政が行っているが、自ら組織の運営資金を獲得していく気概が必要である。これからの時代、組織が自主的に独立して運営する気持ちがあるかどうか問われている。

歴史的にスポーツは、教育・厚生・医療のカテゴリーで進められてきたからだと考えられるが、今後は外部資金の獲得について行政からの情報収集も含め、自ら積極的に行わざるを得ないだろう。皆さまの知恵を絞って、横串を打って、ともに協賛金や民間の補助金等を獲得して運営してほしい。

塔本座長

海老原アドバイザーに、質問・意見のある方はお願いしたい。

【意見なし】

塔本座長

以上で本日の議事が全て終了した。進行を事務局に返す。

●閉会

事務局

平成 30 年度のスポーツを楽しむまち逗子推進懇話会のメンバーについても、基本的には現在のメンバーをお願いしたい。

次回会議は、来年度の 5 月下旬から 6 月頃を予定している。ここでは、スポーツ推進計画の見直しを行う。

これをもって「平成 29 年度第 2 回スポーツを楽しむまち逗子推進懇話会」を閉会する。

◇◇◇終了◇◇◇